

専念寺通信

専念寺通信

五月号 (NO. 117)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>



気候不順の4月がおわり、ようやくさつき晴れ、とうとう本当の春がやってまいりました。寒暖の差のはげしい3月、4月でしたが、皆さまおかわりなくお過ごしでいらっしゃいましたか？

☆施餓鬼会法要

今年の施餓鬼会は5月30日の日曜日です。毎年、施餓鬼会の由来を申しあげておりますが、これは、飢餓に苦しむ餓鬼に飲食(おんじき)を施す法会(ほうえ)です。お釈迦さまの弟子、阿難がある日の夕暮れ

時、瞑想していると、口から炎を出す焰口餓鬼(えんくがき)があらわれます。鬼は、阿難の命があと3日であると告げて去ります。阿難は釈尊のもとへゆき、この出来事を報告いたします。釈尊は餓鬼道に堕ちて苦しんでいるすべての焰口餓鬼のための法要を営むよう教えます。その教えに従い法要をおこない、祈念したところ、飢えに苦しむ餓鬼が救われ、阿難もまた、福德寿命を得ることができました。現代では、この法要は、さらにひろい意味にとらえることができます。餓鬼道に堕ちて苦しんでいるかもしれない私たちの祖先をふくめ、いま現在生きて、飢えに苦しんでいる、困難な生をいきている人たちがすべてに思いをいたし、あわせて私たち自身も救われますようにと祈願する法要といえるのです。

☆散華

法要のさなかに僧侶が揃って撒くのが散華(さんげ)です。これは蓮の花びらをかたどったもので、この散華を本堂内にいらっしゃる方には手にいれることができますが、毎年、お堂に入りきれない檀家さまが多く、お持ち



になれない方がたくさんいらっしゃいます。そこで、今年は、皆さまにお渡しする袋に、専念寺の名前入りの散華を一枚ずつお入れいたします。本堂で僧侶から撒かれるものとは少し模様の違う散華ですが、一年間どうぞたいせつにお持ちください。皆さまをお守りするものであると信じています。

今月号の写真は本堂よこの白い藤の花です。毎年5月の連休のころに咲きますが、4月おわりの気温の高い日に一気に花が開きました。藤棚のしたに行きますと、甘い、良い香りがします。蜂が蜜をもとめてしきりに飛びかいます。ちょうちょも飛んできます。入り口近くのいちぢょうの樹も新芽をつけ、ご覧のように緑の葉が育ってまいりました。

私たち人間に、悲しいことや困難なことがあっても、自然はいつもかわらず大きなものの恵みを教えてくれます。いつまでも同じところにたちどまっていなくて、先へ進むようにとうながすように、限りのあるこの生を無為にすごさず、勇気を持って一步を踏み出すようにと教えてくれるようです。

どうぞ、お身体をたいせつにお過ごしください。平成22年5月1日 大黒

